



Bブロックにエントリーされた全12作品を公開します。

最後の覇者となったのは果たして誰??

<http://www.columnland.net/> にてごらんください。

恋する者へ

愛は逢より出でて
相より愛せ

(愛は出会いから生まれるもので、
相手以上に愛さなければならぬ)

XXX

「いらつしやいませ、こんばん……は」
 つい、迎える声が尻すばみになってしまつた。彼の方は、さすがに承知で来たのだろう、なんの反応も見せはしない。うつむき加減の、陰鬱な表情のままで。

「……こちらで、お召し上がりですか？」

私は密かに深呼吸すると、落ち着いて、マニユアルどおりに言葉を紡いだ。首を横に振る彼の瞳に、私は映らない。私もついに、彼に向けていた目をレジに逃がした。

——昨日、彼と喧嘩した。

それが、今こうなっている原因だった。冬休み初日。私が暇かと訊ね、彼が忙しいと答えていたその日。一人で出かけた私は……偶然にも、楽しそうに笑いながら、女の子と歩く彼を見かけてしまった。

『忙しいって、言ってたじゃん……』

怒る筋合いなんてなかった。別に付き合つてるわけでもない、ただの腐れ縁でしかない私に。……なのに私は、彼に感情のたけをぶつけてしまったのだ。

——ずっと隣にいられると思っていた。

そうじゃないんだと気付いて、それが悔しかった。だけど……それでもせめて、一番の女友達でもいいから、一緒にいたい。だから謝りたくて、嫌いにならないでつて言いたくて——でも、ただ謝るだけじゃ足りないと思つたから、だから私は——

「……てりやきバーガーのセット。……を、ポテトで、飲み物は……アイス——」

「てりやきバーガーのセットを、ポテトとホットコーヒーですね、畏まりました」

えっ？と見開かれた彼の目が、ようやく私を映した。が、私が素早く会計を告げると、彼は釈然としない表情で、しかし何も問わずにちよほどの金額を置いた。それから待たせること一分弱、バーガーとポテトとホットコーヒーを入れた袋を渡す。

「ありがとうございました……」

二十二時に店を上がる。私は急いで着替えると、華やぐ街を目的地へと駆けた。

近くの市民公園、その展望台のベンチに腰を下ろす。吹く風の冷たさに上着の前を揃え、ふと腕時計を見る。あと二十分……つぶやいた言葉が白く煙って昇つた。

——来て、くれるかな。でも、来なくてもいいよ。怒らない。あんなひどいことを言つて、こんな試すようなこととして。悪いのは私だから。……でも、もしきみが、まだ私を傍に置いてくれるのなら——

いきなり、目の前に幅広の布が広がった。面食らう私の首に、その布がくるくると優しく巻きつく。そして、それに続いて、

「帰るまでに冷めちまってたんだが……」
 ゆっくり、苦笑混じりの声に振り向く。

「アイスでも、きつちり空にしたさ」

言つて、わざわざ持ってきたらしい店の紙カップの底を覗き込むと、で、この『話』つて？と彼は表情を締めた。

「——この前のこと。あの時、ひどいこと言つて……本当に、ごめんね。ちゃんと謝りたくて、それで……その」

そこで言葉に詰まる。と、違つてたら謝るけど、と今度は彼がそつと口を開いた。

「あれは……やきもちか？」

朱くなつたと思う。違うよ！といつもみたく叫びたい衝動を堪え、小さくうなずく。

——よかった、と彼の声が微笑んだ。

「じゃあ、そのマフラーさ、受け取つてくれるか。……教わつたんだよ、いとこに。

この前のは、その買出しで——

——だから、その、ありや勘違いだからさ。……俺が、本当に好きなのは……」

一直線、私は彼へと跳び込んだ。彼の腕と胸が、私を優しく受け止めてくれる。

「ごめんね、ううん——大好き！」

「俺も……。メリー・クリスマス」

言つて彼は、私の唇にそつと、優しいクリスマスプレゼントをくれた——

女の話

ある男を愛しました。今は考えたくありませんが：あるときは彼を愛していました。しかし彼は私を愛しなかったみたいです。いいえ、愛さなかったです。

私は一人ぼっちだったので寂しく育ちました。そんな私にとって彼は私の生きる意味でした。

私は彼が好きになりました、いいえ、愛したと思います。いつの間にか、彼は私のすべてになりました。

彼と一緒に幸せでなんでも出来ました。彼も私を愛していると言ってくれて、それを信じました。

しかし22歳の年、私は交通事故にあいました。気を失って、すべてが真っ暗でした。後で気が付いたら、彼はいませんでした。

彼と二度と会うことはなかったです。裏切り：あんなに愛した彼が私を見捨てるとは：許せなかったです。

27歳の年、新しい愛をし、結婚もしました。今私は幸せです。初恋の痛みは残ったけど、新しい愛を得たので。私は一生誰よりも幸せに生きます。

それが彼に復讐する唯一の方法なのですから。

男の話

ある女を愛しました。今も、いいえ、一生彼女を愛するつもりです。

彼女は美しくやさしい女の子でした。彼女のためなら僕は何でもやるつもりでした。

彼女は一人ぼっちでした。父母がいなくていつも寂しがっていました。

僕はそんな彼女の寂しさを愛で忘れさせようと思いました。彼女と一生幸せに生きることを誓いました。

そうするはずなのに：彼女に不幸が訪ねました。交通事故という名の：そう、彼女は僕が25歳の年、事故にあいました。彼女は目が見えなくなっただけです。僕は彼女が痛がる姿を見る自信がなかったです。

それで、決めました。僕の目を彼女にあげて、彼女の世界を取り戻すことを。彼女は気を失ったままです。術を受けました。

僕はなにも見られなくなりました。彼女の顔も：それで、僕は立ち去ることにしました。彼女が気を付いたら、僕がもつと苦しくなるので：

その後彼女が結婚したことを聞いて、彼女の幸せを祈りました。

それが僕の唯一の幸せなのですから。

負けない心

さわやかな五月の風に揺れる繊細な黒髪。細い首に自然とかかる左手は、触れれば壊れてしまいそうなか弱く。

春の陽気に誘われて、がやがやとうるさい教室の中、彼女は窓の向こうの遠い海を見つめていた。物憂げに眼を細めるその顔は、この学校そのものに価値がないことを嘆いているのかもしれない。

——学校始まって以来の天才児。そんな評価を得て入学してきた彼女の知名度は凄まじい。中学生にして大学の研究プロジェクトのメンバーとして活躍し、特別に飛び級なども考えられているらしい。まさに大人たちの期待の星だ。

しかし、その落ち着いて子供離れした口調、態度に反感を持つ生徒も多い。このクラスでは明らかに浮いた存在となっている。こういう特別な対象はいじめの対象にもなりやすい。実際に机に落書きされたり、上靴を隠されたりするなんてこともよくみられた。

彼女が必要以上のことを話すことはないし、笑うのもみたことがない。

——一向に教室内は静まらない。彼女は顔をうつ伏せて寝てしまった。僕は彼女の机の後ろでため息をついた。きっと彼女には僕たちのまだ見えない世界にいるのだろう。

彼女の居場所はこちらじゃない。そんなことは分かっている。

このぼくも一年前までは彼女をいじめる側のチームの人間だったのだし、今のような時間は先頭に立って騒ぐ人物だったのだから。才能を妬む気持ちは嫌というほど理解できる。

しかし今は違う。残りの三カ月、彼女には今この時間を楽しんでほしいと真剣に思っている。なぜかって？——簡単なことだ。僕は天才に恋をしているんだ。

放課後。僕は遅くまで校庭で友達とサッカーにふけていた。いつも以上に夢中になり、気がついたときには一面は真っ暗。

急いで帰ろうと思って帰る準備をする。しまった。鞆がない。教室だ。

焦る僕は教室へと走る。サッカーでへとへたになりながらも、必死で階段を駆け上がる。

教室のドアを開けようとしたその時、僕の机の前の席に人影が見えた。彼女だ。いつもみたいにうずくまって机に突っ伏している。

でも、なぜ今？

ゆっくりとドアを開ける。彼女が顔をあげる。

僕に気がついた彼女は何も言わずに僕に鞆を渡すと足早に去って行った。

何をやっていたのだろうか？ぼーっとそんなことを考えてながら廊下を歩いていると、先生が現れた。どうやら話を聞けば、先ほどまで彼女と面談をしていたらしい。

「でも、彼女、教室で何をしてたんですかね？」

「まだみんなには言っていないんだが、あいつな、一週間後、海外に引っ越すらしいんだ。卒業前なのにな。それでなにか考えるものがあつたんじゃないのか。」

その次の日、先生は彼女の事情を教室に伝えた。今でも覚えてる。あの周りの生徒の嬉しそうな顔。自分でも抑えきれない感情が爆発する。僕はこんなやつらとは違う。流されちゃだめだ。僕は彼女の前に立ち、こう告げた。

「僕は君のことが好きだ。今までみんなに嫌がらせされたのも知ってる。止められなくて本当に申し訳なく思ってる。君は勉強ができる。僕たちとは器も違うし、才能も雲泥の差だ。でも、そんなことじゃないんだ。君は僕たちと同じ時間しか生きてない。君はもっと笑わなくちゃいけない。もっと泣かなくちゃいけない。ここに価値がないなんて思ってた逃げちゃだめなんだ。最後の一週間でこんなこというのはおかしいかもしれない。でも、僕と……付き合ってほしい。」

一瞬の静けさ。

彼女の涙。こらえきれず漏れる声が愛おしい。

天才にも感情はある。僕たちがどんな存在でもどんな立場でも「愛すること」はできるんだ。カーテンが揺らぐ教室で、僕は思いつき彼女を抱きしめた。

深夜三時。ふと、僕は目を覚ます。隣には裸の女が眠る。

窓の外では、三時間前と同じように激しい雨が降る。締め切られた部屋には自分の汗と、女の香水のにおいが混ざって混沌を生み出している。窓を開けると雨が部屋の中に入ってきて、僕の足に冷たい感触を与える。かまわずに、裸のままベランダに出て全身で雨を感じる。家の前の電灯は切れかけていて、自分の目には、存在するはずのない果てしなく闇と、永遠の光が交互に訪れる。耳にはいるのは女の叫び声のような雨音と、僕の心臓の鼓動。あまりにはつきりとした心臓の拍動の感触に吐き気を覚える。きつとこれは何かの前兆なのだと思う。

その場に座り込んで、目を閉じ、まだ独りではなかった夜のことを思う。自分がまだ精力に満ち、あさはかだったとき。

そのとき横にいた女は自分に「好きよ」と言った。そして何も考えず、その女を裸にした。

その女は終始何も言わずに、ただぼんやりと天井を見ているようだった。ただ一言、*"It's better to burn out than to fade out"*という言葉がメモに残されていた。人であることをやめ、モノになった。今思い出せるその女の姿は、首の血管にキスをしていて、透き通っているが、何物も映し出してはいなかった。その水面には何も映っていないかった。そして愛だと思っていたものは、欲望でしかなかったこと。

自分の脳内で彩りを増していく女の面影は、やがて極彩色の世界に導かれて、もはや原型のなきものになった。覚えていたのは、のどに広がる血の味。喉からえぐり出そうとした想いが突っかかって、自分を壊していった。今でも時々喉の壁に感じる圧迫感をぬぐえないでいる。そんな感覚が降り積もって、自分は頭のてっぺんまで埋まってしまった。そして気づいたのは、あの女が好きだったのは自分の全てではなかったということ。そして愛だと思っていたものは、欲望でしかなかったこと。

そして分かった。痛みを伴うものしか愛と認められないこと。

考える。死とは何なのか。あのとき確かに存在していた自分と、不確かな存在の女の間に何が横たわっていたのか。あのか。確かに自分と女は裸になって生きていた。しかし、生の極限を迎え、女は自分だけ向こうの世界に行ってしまった。かつて、死と生は対局に存在していた。それがどういう訳か、死と生は壁一枚で隔てられるようになり、やがて一つになってしまった。それが夢であつたらと思ふ。けれど同時に、夢でないことを望んでいる自分もそこにいた。

思う。女がいるはずの天国を。そこには何も無い空間が広がっていて、女はずっとそこにひざを抱え座っているんだろう。自分から失われてしまった、女が永遠に奪っていったものを抱えて。

部屋に戻り、濡れた体をそのままにベッドに座る。自分の腕に浮かび上がる血管を目にする。流れる血が、もしかして自分が生きていることを示す唯一なものなのかもしれない。寝ている女の首に手を回し、その手を少し強く握る。女の血が生きていることを知らせる。もしこのまま強く握り続けられれば、そのうち女は壁を越えるのだろうか。しかし、あの女でなければならなかったのだ。

やけに大きな時計の音、オーディオの止まり続けるディスプレイ、横で不機嫌そうに寝返りを打つ女。それらすべてがまるで時間が止まったように、ただ存在する。

止まり続ける時間に終止符を打つために、CDをかける。そして若い男の浮ついた声が、語りかける。

"The Latina Elizabeth Taylor"/If they hadn't call her that/Her life would be much better.

もしあの女があんな女として生きていなければ、あるいは幸せでいられたのかもしれない。

自分の鞆から取り出したカッターで手首に傷を付ける。女のいるベッドにもう一度入る。

目を閉じ、今なら感じられるあの女の間。

生の極限で、死に値する痛みの伴う愛を。

愛を感じた瞬間

3位 デートで彼女と初めて手をつないだとき

2位 クリスマスに彼女から手編みのマフラーをもらったとき

1位 彼女にムチで叩かれたとき

一 恋文 一

アジサイが雨に美しく映える時期となりました。いかがおすごしでしょうか。

いつもはあなたのお邪魔にならないように気をつけているのですが、ぜひともこの気持ちを伝えたいという思いが抑えきれなくなっております。

先日お食事を一緒にさせて頂き、楽しく過ごさせて頂きました。あなたは高野豆腐が好きなのですね。お刺身がお好きなことが存じておりましたが、またひとつあなたの違った一面を知ることができ、うれしく思いました。

私は、あなたのためにいたい何が出来たらどうかと常日頃考えているのですが、悲しいことに何も思いつきません。自分の無力さを呪いたくなります。こんな非力を私であっても、あなたは大切にしてください。その優しさは、涙が出るほどうれしいものでございます。

古風なことと、お笑いになるかと思いますが、いつまでも、おそばに居させて頂きたいと思っております。暑さに向かう折、ご自愛くださるようお願い申し上げます。

かしこ

サナダムシ

宿主様参る

徳間書店×NHK 提携作品

2007年 「19歳法案」

突然決定された

19歳以下の国民は

失う

その市民権を

不法滞在者となった僕達「子供」

国外退去の期限は一ヶ月

従わぬ場合は

強制排除

服従か抵抗か

迫りくる期日

自警型警備ロボット「トトロ」

迫り来るガチャピン（緑服機動捜査部隊）

襲い来るムック（赤服強制執行部隊）

戦う子供達

地下鉄魔駅の秘密基地

最後の砦

逃げる子供達

絶え間ない襲撃

内乱

確執

「蜜は何故早く死ぬと思う？」

「愛」

愛を失った大人

力尽きる子供

謎の人物「マリオ」

愛を知らない子供

次第に明らかになる

謎の組織の存在

強制排除の行く先

消えた大人たち

「19歳法案」の真実

愛を知らない僕達が

愛の失われた社会で

何だつたのか

が気付いた

「生きろ。心の友」

「今、その物語を語ろう」

最終最初

The first & final children

チルドレン

「そろそろ、反撃してもいいですか？」

「さよなら、地球」

©「最終最初チルドレン」制作委員会

全ての昭和最後の
そして
平成最初の子供達へ

小さな部屋、私はその片隅でいつも二人を見つめていた。二人はいつも微笑み合い、とても幸せそうだった。そんな二人に転機が訪れたのは突然のことだった。

——なんで今日は来ないの？

なんかね、好きな人がいるんだって。

——え、それって！

私、一人ぼっちになっちゃったよ…

私たち、もうダメなのかな…

小さいけれど、とても冷たい雨がひとつ私の頭に落ちた。彼女には決して何も落ち度は無く、それはあまりにも一方的だった。だけど、ちっぽけで無力な私には、どうすることもできなかった。

彼女は日に日に枯れていった。冷たい雨を降らせるその瞳は、淋しがりやのうさぎのように真っ赤に充血していた。彼のほうからも一向に連絡が来なかった。それでも彼女はこんな私に——何かをさるるように、毎晩の様に話しかけた。

あなた最近少し痩せた？

——ううん、私はあなたのほうが心配よ？最近ちゃん

とごはん食べてないじゃない。

私はあなたに毎日をあげてるのに、どうしてあなたの蓄は開いてくれないの？

——それはね、あなたも同じでしょ？

あなたはやわらかそうだけど、さわるととても痛いからね。

——わたしも今のあなたには触れられそうにないわ
壊れてしまいたいそうだから。

ある晩のこと、彼女は彼に呼び出され、結婚するという
ことを告白された。

彼ね、結婚するんだって。

——そう、なんだ。

その時にね、彼に「ありがとう」って言われたの。

——
顔ひっぱたいてやった。だけど、文句の一つも言えなかった。私も彼には感謝してもしきれなかったから。それにね、私、今までアイツに頼りすぎてたから。これからしばらくは一人で頑張ってみようと思うの。

——そう、あなたの決めたことなら文句は言わないわ。頑張ってね。

それでね、あなたには悪いんだけど、これからは私の代わりにアイツのことを見守り続けて欲しいの。あなたがいると私はすぐ弱音をはいちゃうし、それに、アイツのことがやっぱり心配だから…

——分かったわ。任せて置かせて。

それじゃあ…よろしくね。

私は小さな蓄を携えたまま、彼のところに送られた。彼は到着した時こそ戸惑っていたが、すぐに包装を解くと窓際の日のあたる暖かいところに私を置いてくれた。彼は私に語りかけることはなかったが、ふとしたことで彼の真意を知ることができた。それはきつと届けられることのない一通の手紙だった。

お前のお気に入りのサボテンが突然送られてきた時には本当に驚いた。確かこれは何年か前の誕生日に、ズボラでどこか抜けたお前に丁度いいと思ってプレゼントしたものだ。今までちゃんと大事にしてくれたのがとても嬉しい。俺は今、コイツを見るたびにお前を思い出すよ。そしてひどく決心が揺らぎそうになる。

今すぐにでも、お前に会いたい——

突然、あんな嘘を言ってお前を突き放し、辛い思いをさせてしまったことが本当に情けない。俺はお前に甘えていた。ただただ不安で、どうしようもなかった。自分一人では何も出来ない事に気がついてしまったんだ。きつとこのままじゃ俺たちは駄目になる。お前のこのサボテンもそうだ。愛情を注ぎすぎても、コイツには受け止めきれない。もう根が腐り始めている。

でも、まだ手遅れじゃない。

コイツも、俺たちも。

お互いのこの傷を癒し、暖かな季節になったら、必ず迎えに行く。俺が愛しているのはお前だけだ。いつか、必ず——

私は一度この蓄を落とし、寒い冬を越え、また暖かくなった頃に新たな蓄を付けようと決心した。

ああ愛まみれ・

次の質問にイエスカノーで答えてね。

【グループA】

1. 今、好きな人がいる。
2. 最近、家族と連絡をとっている。
3. 心の底から笑える自信がある。
4. こころで週間で涙を流した。
5. 怒るときはしっかり怒る。
6. 友達に恋の相談をよくされる。
7. 友達の長所を見つけるのが得意だ。
8. 髪型・服装の変化には敏感だ。
9. 占いは毎朝チェックするけど信じない。
10. 愛していると目を見て言える。

【グループB】

1. 愛という漢字を直視できない。
2. 愛・大人・恋・子供みたいな風潮にはうんざりだ。
3. 最も好きな主語は「彼女ら」だ。
4. 料理は好きだが洗い物が嫌で結局やらない。
5. 幸せはお金じゃない。
6. 愛はお金じゃない。
7. セレブとかじゃない。
8. ヒルズとかじゃない。
9. 預貯金とかじゃない。
10. まああったらあったで別に全然構わない。

【グループC】

1. 必ず最後に愛は勝つと思う。
2. 愛してるの響きだけで強くなれる。
3. 愛されるよりも愛したい。
4. 真剣(マジ)で。
5. もう恋なんてしない。
6. なんて絶対言わないと決めている。
7. サランヘヨだ。
8. あいあい、あいあい、おさるさ
9. きつとここから愛だと思う。
10. この世に大切なのは愛し合う事だけと教えてもらった。

自分の気持ちに正直に!! (うぶ)

【グループD】

1. 愛知より愛媛のほうがエロい。
2. アイランドはエロいけどアイスランドはエロくない。
3. むしろ逆だ。
4. ジャイアンツ愛はローズが加入した時点で捨てた。
5. あく言えばこう言うタイプだ。
6. I love you. の you の部分も何とか愛に関連付けたいと思案したことがある。
7. いや、やっぱり愛知もエロい。
8. 本当に?
9. 相武沙季の話を友達がしてるのを初めて聞いたときはAV女優の話をしてるのだと信じて疑わなかった。
10. なんだかんだでつくくは凄い。

【グループE】

1. 愛は理屈じゃない。
2. オフサイドだって場合によっては愛だ。
3. 立ち読みは愛のはしくれにも置けない。
4. そろそろこいつネタ切れじゃね?と感じている。
5. ニュース番組でアナウンサーが「今日は特にないです。」という日を待ち望んでいる。
6. トランプに4つも形はいらない。
7. マヨネーズだって独占市場で構わない。
8. いや、愛知は全然エロくない。
9. 愛に形を与えるならきつと楕円なのだろう。
10. いびつ……ってか?

【結果】

☆50〜41イエス!

あなたは既に成熟した愛まみれです。時に周囲から引かれてしまう程の愛がにじみ出ています。

☆40〜31イエス!

あなたは見分不相応な愛まみれです。大人になろうと背伸びした結果じん帯が切れてしまえばいいのに。

☆30〜21イエス!

あなたはまだまだ発展途上の愛まみれです。逆に今のままの方がいいと言う意見もちらほら。

☆20〜11イエス!

なんもしてないのにじん帯が切れてしまえばいいのに。

☆10〜1イエス!

あなたは清涼感溢れる、ダイナミズムかつ繊細な、時にアクロバティックでストイックな次世代を担う愛まみれであると言われたいが為に日々を過ごしているのがもう嫌というほど見え見えます。火の元に注意してください。

☆0イエス!

あなたはおうし座です。

【愛まみれになった皆さんへ】

どうでしたか? 予想通りの人もいれば、こんなはずじゃないと感じた人もいます。ただ大切なのはこれからです。いつまでも後ろを振り向いてはいけません。この結果を受け止めて、どうか愛について深く考え、新しい1歩を踏み出してください。ちなみに、僕は今でも前の彼女が忘れられません。(うおーあいにー)

ずつと二人で

ある金曜日の夜、家の屋上で、二人で手をつないで星を見ていた。月は、東から南に移り、西に沈もうとしていた。

二年前の今日、私と彼は一緒に暮らし始めた。だから今日は、二人で大きめのケーキと、アルコール入りのシャンパンを開けて。

ほろ酔い加減で、ほてつてきた体を冷ましに外に出たら、夜の、少しだけ冬の匂いを残した風が心地よかった。

沈黙の中で、すぐ下でアパートの硝子窓がかたかた鳴る。ふいにそれが止んだ時、私は感慨をこめながら口を開いた。

「この暮らしをはじめてから、もう二年も経つんだね」

「そうだな。あの時の君は——硬い顔でよろしくお願いします、なんて言うてたけどな」

「あ、あの時は、私だつてどきどきしてたんだもん…」

彼がからかうように言うのと、私は顔を少し膨らませて、だけとすぐに笑顔になつて。

「うしていられることが幸せだと、そう思つていた。

「あの時の夜も…星を見てたんだよな」

「うん…そのときもこうして手をつないでたら、私の不安も消えていったの」

私は、彼の手を握る手の力をぎゅつと強めた。彼の右手から私の左手へ、温かさが伝わつてきて、それはおれも同じだよ、と答えながら握り返してくれた。

また少しの間、沈黙になつた。私が黙つていれば、彼も何も言わずに待つていてくれる、そんなところも私は好きだった。

「ねえ…あなたはなんで私と一緒に暮らそうと思つたの？」

私は、ふと氣になつたことがあつて、いい機会だからと口走つてしまった。

「ど…でもいい。だから、一緒に、暮らそう。」

「ここに来るよりもつとつと前に、彼は確かにそう言つたのだ。そして、夢のような時間が始まつた。だけど。

唐突な私の問いに驚きつつも彼は、どうしたの？と訊ねてきた。

ああもう、と私はそこで後悔した。私の気持ちなんて、恥ずかしくて言えるわけがない。でも、彼がすごく困つた顔をするから、答えざるを得なかつた。

「この前ね、短大を出て結婚した子と会つてきたの。そしたら、すごく可愛くなつて…。あ…でも、たいした意味じゃないの。ただ、あの時からそういう事はあまり聞けなかつたし…」

「…羨ましくなつた？」

…どうして彼はいつも、私の心がわかつてるんだろう。私は、恥ずかしさに俯いたまま、微かにうなずくことしか出来なかつた。

おれには、彼女の様子から、おぼろげながら彼女の言いたいことが分かつていた。

そして、小さくうなずいた彼女が、とてもいじらしくて、でもとても愛しくて、おれは自然と笑みを浮かべて語りかけた。

「心配はいらないつて。その子がすごく可愛くて、おれにとつて君は、可愛いなんてものじゃないから」

彼女が顔を上げたのを見てから、おれは続けた。

「可愛いつて、愛することができると書くだろう？おれは、君を愛さなければ生きていけないから」

「…ありがと。なんか、照れちゃうな…」

彼女は、少しはにかみながら、おれの好きな笑顔になつた。だから、今一度、想いを告げようと思つた。

「一緒に暮らそうと思つた理由だけど。その前に一つだけ、英語で一一緒に、つて何か知ってるよね？」

今度は彼女がきよとした顔をした。でも、彼女は真つ直ぐに考えてくれて、ちゃんとその言葉を紡ぎだした。

「…together？」

「そう、一緒にいる、というのはto, get, herなんだ。君と一緒にいるのは、君との時間を得たいから。君といられる限り一緒にいたいからだよ。」

…君が、本当に好きだから。」

すべて言い終えると、彼女は無言のまま静かに手を離すと、おれの背中に手を回して、胸に顔を預けた。

そして、葉から落ちる夜露の一粒のように、ぼつりと一言つぶやいた。

「私も…大好き。ずつと、一緒に…」

おれは、彼女を強く抱きしめ返して…このまま時が止まればいいとさえ思つた。

だけど、時は止まつてはくれない。だから。

「君と一緒になら、きつと未来は輝くから。この先果てしなく続く、燦然と輝く時の道を、ずつと二人で歩いていこう」

彼女と視線が交わつて、でもこれ以上、言葉を尽くすことができなくて。

ゆつくりと…彼女の柔らかな唇にそつとキスをした。

いつの間に咲いたか、丘からの穏やかな風と桜の雨が、二人を包み込んで祝福していた。

アイとは虚なものだが、

この世に無くてはならない

物なのである。

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	逢・愛・哀	0 pt	11 位	1 sp
		たわむれに自分で創り出した顔が涙の堰を切ってくれる。静かに泣くことで、少しずつ悲しみが体の外へあふれ出してゆく。それは一方で、自分に正直になる時間。自分の心をほぐしてゆく時間。 そんなふうに、悲しみと、そしてそこからの立ち直りが同時並行で進んでいるように読みました。、悲しみを伝えつつも、きっと明日は晴れるよね、というほのかな明るみが行く先にふわっと灯ったような。しっとりと濡れた叙情が漂うラストセッションの表紙でした。 特別賞：敢闘賞（都合により）		
A02	White Month Festival	1 pt	9 位	0 sp
		なつかしいなあ。白月祭。今年のコラムニストさんたちにとって、あの頃、みんな若かった……と遠い目で語れるような共通の思い出のタームですね。 今回、音楽という、とても言葉にしにくいものを、たおやかにつかまえて聴かせた前半の描写力がとりわけみごとだと感じました。 そして季節は移りゆき……とその後の展開を見せつつも、敢えてまとめるのではなく、未来へと開いたラストもここちよくて。また、どこかで会いましょう！		
A03	Dreaming Lovers	1 pt	9 位	1 sp
		だ、だ、誰が予想したでしょうか。あのリストカッター氏が、ダークサイドをくぐりぬけ、こうしてほのぼの～の境地に至るとわっっ（驚愕）。 もとい、作品について。 何だか、芝生の上でまどろんでいるような、でもこれ、どう見てもベッドの上ですよ。ベッドの上って、こんなに無邪気な（二次元っぽい）世界だったかなあ。いかがですか、経験者のかたがた？ 特別賞：音読賞（お茶会で音読して下さい） イチオシフレーズ：「ちょっと何す」		
A04	『正直者のおじいさんの災難（正直者は救われない？）』	22 pt	1 位	3 sp
		改行なしで、ひといきに。あれよあれよと見ているうちに、ラストは鉈ですばん。残酷なくらいの、このエンディングが痛快です。しかも、「おじいさんちょっと感動」と、ほのぼのさせた直後に容赦なくすばん！ 絶妙の呼吸でした。 最後の覇者が最強の覇者！ レギュラーゼロポイントからの大逆転、おめでとう!!! 特別賞：塩味賞（他の甘ったるい感じの作品の中で一味違った）/貴重なギャグ賞（今回ギャグが少なめだったのでオアシスでした）/昔話賞（愛のテーマで昔話っぽく作った点が良い） イチオシフレーズ：「容赦なく鉈を振り下ろしましたとさ」		
		13 pt	3 位	1 sp

A05	玄関	本作における隠れた主人公は「今世紀最大のダメ男」と見た！ ほんと、姿を現さないで、母越しにぼうっと浮かぶだけなのに、存在感が巨大です。 別れは愛の始まり、このいびつなカップルだからこそ、こんな逆展開がよく似合う気がしました。 「心の中でつながっているのだから」——ラストのリフレインが、いつまでもこだまします。愛チョコゲット、おめでとう！ 特別賞：ありがとう賞（すごい！オレ） イチオシフレーズ：「心の中でつながっているのだから」
A06	Last call	9 pt4 位0 sp ひとつひとつのパートはバラバラな感があるのだけれど、何と言ってもラスト1行のインパクトが、すごい。すさまじい。 「なぜ、それを伝えるのを、その時まで待っているのですか？」ぐさりと刺さって、答えに詰まる迫力でした。 イチオシフレーズ：「そしてなぜ、それを伝えるのを、その時まで待っているのですか？」×2「会いたいよ」
A07	ディス	5 pt8 位2 sp やさぐれ死神さん。ウザいのひとことで、ばさばさ消しちゃうなんて、なんてまあ、ヒドいおかた。 そのやさぐれぶりは十分に伝わってきましたが、ディス氏がなぜにこのようなナナメな感覚を有するに至ってしまったのか、心の闇、過去の履歴などちらりと見せていただけるとより深まった気がします。 だいたいねえ、二股三股くらいで人死になんて、そうそう出やしないのさ——と、これはオトナのセリフ。 特別賞：山本賞（A12とコンボ）/ケンカ売ってるで賞？（他の作品の殆どにケンカ売ってるよね） イチオシフレーズ：「——消える」
A08	分かつ壁	7 pt5 位1 sp ふつう、お風呂屋さんオチで終わるところを、さらに呼びかけへと展開した工夫が勢いのあるラストになって成功しています。 世界的な大問題と、身近なお風呂屋さんを強引にくっつけたミスマッチが、おかしみを醸し出してGOOD。 特別賞：男性党賞（立ち上がって、壁をブッコワセ!!） イチオシフレーズ：「小さなことから始めよう」
A09	エコー ECHO	18 pt2 位0 sp 何より怖いのは忘れてしまうこと——そんな人間の根源的恐怖を、病気に託して描ききって、しんしんと身に迫る悲しみでした。 午後11時39分、ただ見ているだけだったその瞬間。忘れないよと約束しつつ、言葉も記憶も日々に風化してゆく運命。それでも「ずっと一緒だよ」と信じたい気持ち、こだまするラストでした。グレート！ 愛チョコゲット、おめでとう!!
		7 pt5 位1 sp

A10	ふたり	べただ。しあわせ感満開。 何の話をしたかなんてどうでもよくて、一緒にいるだけでしあわせ、という人生の機微をしっかりとつかまえたところ、なかなかの哲学者であります。 特別賞：幸せそうで賞 イチオシフレーズ：「あー、あれね。どっちかといったら俺の真上じゃね？」
A11	ありがとう。それがキミの愛。	0 pt 11 位 0 sp いやふつう、チョコを使い回したりしないでしょ、乙女のモラルとして。 そんな究極のお人好しさん。届かずに終わることを運命づけられた想いのせつなさ。 それでもウラミ節にならずに爽やかなのは、きれいな風景をひとつひとつついでいねいに見せてくれた筆づかいのおかげかと。 イチオシフレーズ：「西の夕焼けが窓ガラスに即席のステンドグラスを作っている」
A12	愛	7 pt 5 位 5 sp バカップル。典型的。 赤面しながら執筆したと推定。A11のチョコと合体させて、賞品ネタにおいしくいただきました。ごちそうさまっ。 スバラシイ破壊力にて、最多特別賞とイチオシフレーズ大賞ゲットです。おめでとう&すえながくおしあわせにっ。 特別賞：勝手にやってる賞/ばか賞（究極にバカな感じがよい）/日本レコード大賞（面白そう、聞かせてよ）/タカフミ賞（the end これが効いてる）/おいっ!!賞（つつこみたくなる） イチオシフレーズ：「これからお前と（愛）を作って入れていくんだからさ」×2 「もうっ、タカフミったら」×2 「サトミ…」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	恋する者へ	5 pt あい、という言葉の響きがきれいに耳にこだまして、まさに表紙向き。せっかく「相」が出てきたので、相思相愛へつなげて良かったか、と。	5 位	0 sp
B02	～XXX～	2 pt 季節感は置き去りにしても、やっぱり二人が結ばれるのはイヴじゃなくちゃね。 バイトの光景、展望台へとつないでラブコメ。照れずに駆けぬけるのが吉。おしあわせに。 で、特別賞で突っ込まれてますが、XXX の意図は？ 特別賞：卑猥賞（XXXを辞書で引いてみよう!!）/XXX賞（ジーニアス英和よりわいせつ度がいちばん高いポルノ映画）	12 位	2 sp
B03	二人の愛	22 pt いやもう究極の自己犠牲ですね。そして、ふたりは、それぞれの形において「しあわせ」を手にした、と。「二人の愛」が二人の間の愛ではないという皮肉な結末が、ぐさりと心に刺さります。 日本語を母語としていないにもかかわらず、骨太のストーリーを立ち上げて最終セッションをみごとに勝ち取った彼に熱い拍手!!!	1 位	0 sp
B04	負けない心	3 pt 告白セリフの眩しさが燦然と輝いて、ストレートな愛がひしひしと伝わってきます。 これだけストレートに告白されたら、よっぽどカチカチの女心でもなびくだらうなあ。	8 位	0 sp
B05	Elizabeth Taylor	3 pt なぜにエリザベス？ が謎。 雨、自殺した女、ハードボイルド。いつもながら描写力全開で、びしびしたたたき込んできます。「人であることをやめ、モノになった」なんて、なかなか出てこないフレーズでしょう。さすが。	8 位	0 sp
B06	愛を感じた瞬間	3 pt	8 位	1 sp

		文字の大きさが、よろこびの大きさ、なのでしょうね。 禁断の世界へようこそ。 なるほど、愛の鞭、って語源はそこか！（おい 特別賞：裏の影響受けたで賞（おもしろいけど裏の影響が）
B07	ー恋文ー	4 pt 6 位 1 sp ラストでうわ～～！ 気色悪さ全開。うん、たしかに食事をともしする胎内パートナー、人体に危害は及ぼさないし、リクツは通ってる。 この作品のおかげで、今週の賞品が高野豆腐に決まりかけたのは内緒です。 特別賞：寄生虫してるで賞（サナダムシの性質に沿った恋文の流れ文運びがけなげでGood） イチオシフレーズ：「高野豆腐」
B08	最終最初チルドレン	16 pt 2 位 4 sp アンドレ、インク無駄遣いの子。 添削をウラに書いたなんて、初めてです、ったく。 でも、おもしろかった！ カケラだけなのに、しっかり浮かび上がるストーリー。映画予告編を進化させると、こんなになるんだ。 フレーズをこなごなに砕いても、パズルのピースさながら、人の物語希求力はしっかりストーリーを構築する。ならば、きしょーてんけつ、なんて、お行儀よくつながりやまとまりや着地点を気にしなくても、もっと破天荒に、もっと傍若無人に、もっと自由自在にコトバを操ることが可能なのでは？ という言語表現の限界への挑戦と読みました。 壇上死守のみならず、最多特別賞もさいいましたね。おめでとう!! 特別賞：努力だけは認めてやるよ賞（大変そうだった）/デザイン賞（努力は見える）/手が汚れるで賞/インクをたくさん使ったで賞 イチオシフレーズ：「迫り来るガチャピン」×3 「自律型警備ロボットトロ」（マリオ等とセットで） 「謎の男マリオ」×2
B09	花	3 pt 8 位 0 sp 受け身の聞き役だったサボテンさんが、突然物語に参加してくる後半がすごいです。 なるほど、こんな愛もあり、ですね。 いじましい蕾ならいっそ捨ててしまおう、一からやり直すために。ささやかなサボテンのささやかな決意が、しっかり心に刺さりました。
B10	ああ愛まみれ・・	16 pt 2 位 1 sp 読みにくいフォントが難だけれど、これでもかこれでもかこれでもか、とネタ切れを恐れずに、たらたらたらたら続けた、このエンドレスなぐだぐだ感がユニークでした。 でもって、激論の末、今週の賞品はマヨネーズに決定！ Aブロックはチョコなのね。そのネタ元さんに賞品を差し上げられて、良かった良かった。 特別賞：愛知はエロいで賞（「むしろ逆だ」とかあるから、0イエスは絶対ありえないじゃん） イチオシフレーズ：「ローズが」「じん帯が切れてしまえばいいのに」「愛知より愛媛の方がエロい」
B11	ずっと二人で	9 pt 4 位 3 sp 原点回帰のtogether。女の子視点が新趣向。 いやもう、音読してくださいね、と強要せんばかりの後半の加速っぷりにブラボー！ togetherのひとことが炸裂しまくって、イチオシフレーズ大賞も攫いました。おめでとう！ 特別賞：甘い賞（満場一致）/何げにうまい賞（togetherはよくがんばった）/トリ肌賞（ぞくぞくする） イチオシフレーズ：「together」×5 「燦然と輝く時の道」
B12	『数学と哲学』	4 pt 6 位 3 sp 深い。 虚数にリンクさせて、あざやかに警句。たしかにね。 ここまで悟ってしまったら、もうあとがない。だから、今年の読み納めです。 特別賞：東工大で賞（実際、虚数がなくても生きていけると思う）/アイをかけあわせたらマイナスで賞（ただ上手かった）/富沢賞（教科書化決定、全米が学んだ） イチオシフレーズ：「アイとは虚なものだが……」